



【中央監視室の紹介】



患者様やそのご家族の皆様へ、こども病院で皆様の治療を陰ながら支えている医療職以外の病院職員を紹介いたします。今回は設備関係のお仕事です。設備責任者の桑原さんにお話を伺いました。

こども病院2階の中央監視室で、7名の設備職員が、24時間体制の交代勤務により、施設内の電気、空調、衛生、防災設備など各種機器類の監視及び集中管理運営を行っています。それぞれの設備を具体的にみていきます。

- ①電気設備・・・病院施設で電気は最重要設備です。電気が無いと照明も点灯しませんし、機械も作動しません。そのため、日々小さなトラブルも見逃さないように点検管理しています。
- ②空調設備・・・外来や入院患者様に快適にお過ごしいただけるよう、日々院内の空調機器の点検やフィルター清掃など住環境作りを行っています。
- ③衛生設備・・・トイレ・水道などの水周りのトラブルが無いように点検しています。
- ④防災設備・・・安心して入院・通院生活を送って

ただけるよう、監視と緊急時の迅速な対応に努めています。

⑤その他・・・設備機器の故障発生時などには、迅速に修繕対応を行っています。各部署からの要請で必要な物は、何でも作ったり直したりします。

駅やビルなどで、普段当たり前のように電気がきちんと点灯したり、室内が快適でトイレが使用出来たりしていますが、それは中央監視室のような部署のスタッフが施設を運転管理しているからなのです。



Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

今号は、病院の50周年や新型コロナについてなど時代や世界の移り変わりを実感する内容となりました。社会にどんな変化があってもこども病院にやってくる子どもたちが笑顔でいられますようにと願う気持ちは変わりません。これからも病氣と闘う「小さな戦士(患者手記より)」たちを支えられるよう努めたいと思います。(S.O)

委員長：貝藤裕史
 副委員長：大津雅秀 松本奈美
 委員：深江登志子 黒田隆二
 林 卓郎 河本和泉
 西澤由美子 井口秀子
 寺田朝子 大原晴子
 奥田早苗 琉 隼人
 時 克志 多々見俊輔
 北浦 泰 辛 浩一

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
 HYOGO PREFECTURAL
 KOBE
 CHILDREN'S
 HOSPITAL

〒650-0047
 神戸市中央区港島南町1丁目6-7
 TEL. 078-945-7300
 FAX. 078-302-1023
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
 e-mail: info_kch@hp.pref.hyogo.jp

02病P2-011A4

げんき No.71 カエル

兵庫県立こども病院
 ニュースレター



令和2年(2020) 10月20日

■ 創立50周年を迎え、さらなる飛躍を目指して

院長 中尾 秀人

こども病院は、昭和45年(1970年)に、県政100周年の記念事業の一環で、日本で2番目の小児専門病院として開設されました。令和2年(2020年)に50周年を迎えています。この間、小児医療の進歩、医療を取り巻く環境の変化に適応しながら、日本の小児医療の最先端を担うべく全員が心を一つにして参りました。50年の間に、小児・周産期医療はその対象を、出生前の関わりから、成人への移行期、更には、一生涯を見据えた医療へと広げています。50年にわたって、小児・周産期医療のノウハウ・知恵が蓄積されている事は大きな誇りであり、無形の財産です。これを皆様に役立つものとして、これからも変容していく時代に合わせて、変化し、蓄積し続けなくてはなりません。

今、私達が充実感をもって、小児医療に勤しめるのは、心血を注いでこども病院の診療を築いてこられた多くの先輩医療関係者の努力と共に、信頼を寄せて治療をお受けいただいた数多くの患児・ご家族のおかげであると深く感謝しております。

2016年には、神戸医療産業都市の中核施設となるべく、ポートアイランドに移転開院し、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、小児がん医療センター、小児心臓センターを中心に、こどもとご家族を支える“最後の砦”として、当院での医療を必要とする患者様に、24時間体制での切れ目のない対応を心がけてまいりました。

急性期の高度な集学的治療を行うと同時に、長期にわたり疾患と共に生活しているこども達とご家族に対する支援と癒やしの場としての機能の充実も図っているところです。さらには、小児医療に携わる医療人の教育や、臨床研究の推進、小児・周産期医療に関する社会への情報発信にも力を注いでいこうと考えております。

誰もが感じているように、社会の分断化が進み、少し非寛容になって、医療の現場では困難な状況、心が折れそうになる場面があるかも知れません。しかし、小児・周産期医療、将来の日本を支えるこども達の医療は、なにより大切という揺るがぬ信念で、お互いの考えを理解しあえる医療の現場になるように、努力を続けていく所存です。

病院の理念や、基本方針の患者の権利の項に明記してあるように、患者さんは人間として尊重され、思いやりのある医療を受ける権利があります。十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。この事をよくかみしめて、“医療は素晴らしい仕事だ”と心から思えるように、みんなで力を合わせていきたいと存じます。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。





最近思うこと…それは…私が2つの世界を歩き来しているという事…

毎朝、8時30分ごろ仕事に行く前に、まずおねちゃんを保育園に送って、先生と挨拶をしてから出社しています。そこには溢れんばかりの元気な子供達の歌声や笑い声が聞こえてきます。いつもいつも元気を分けてもらっています。それが私の一日のはじまりです…

そして仕事が終わる20時30分ごろ、ちいちゃんのいる病院へ…

ICU、HCUに入るとそこにはまったく歌声も笑い声もない。命を維持するための装置が並んで電子音だけが聞こえています。朝とは違うもう一つの世界です。しかし、そこにいるちいちゃんをはじめ、たくさんの子供達の元気がなりたい、もっともっと生きるんだというオーラはものすごいです。

一日の終わり…。私は、ちいちゃんがいる病院でもう一度元気を分けてもらっています。

*この文は千裕が入院していた当時書いた日記です。

あれから12年。今でもこども病院を訪れるたび、あの頃と変わらない子供たちのがんばる姿を見て元気を分けてもらっています。

佃 彰宏 (父)



娘の千裕は平成19年10月22日に誕生しました。出生してすぐ心雑音の指摘があり、こども病院に紹介して頂きました。心室中隔欠損症、気管狭窄症など数々の病気が発覚しました。気管をスライド形成する世界で3例目の難しい手術をして頂き、無事手術は成功しました。術後の管理が難し

く入院期間は1年半ぐらいでした。

その間私は毎日面会に行きました。それぐらいしか私にはできないと思ったからです。

同じ病棟のお母さん方に本当に助けてもらいました。不安でつらくて仕方ない時も寄り添ってくれました。今でも他府県のお母さん方とも連絡をとったりしています。小さな戦士の親同士、特別な存在だと思っています。子どもが病気で生まれてきて、こども病院にお世話になることになって、私の知らなかった世界を知ることができました。

一生懸命生きようとする子ども達、懸命に治療する先生方、子どもに寄り添う看護師さん、命というものを大切にするということを本当に教えてもらいました。まだこれからもお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

佃 裕子 (母)

私はこの4月から中学一年生になりました。こども病院に入院していた頃の事は覚えていないんですが、今でも外来とかに行くと「ちーちゃん!!」と沢山の看護師さん達が声を掛けてくれるので嬉しいです！いっぱいお世話になったんだろうな～と思いました。

私の将来の夢は、小学校の先生になる事です。夢に向かって頑張りたいと思います！

佃 千裕 (本人)



千裕 中学1年生

新型コロナウイルス院内感染対策で心がけていること

感染対策チーム 笠井 正志 (感染症内科)

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、当院では感染対策チーム (Infection Control Team: ICT) を中心に、「こども病院を安全地帯にする」をスローガンに様々な職種が一丸となって新型コロナウイルス感染対策を実行してきました。本原稿脱稿時点 (2020年8月28日) で、当院においては、検査陽性患者さんはいらっしゃいませんが、院内クラスター (職員・患者さん) の発生はありません。

特に当院の感染対策の指針を立てる際に、特に重視したことは、**1) デマに惑わされない感染対策、2) コロナだけではない**、の2点です。以下、それぞれについて解説します。

1) デマに惑わされない感染対策—正しい根拠 (エビデンス) と常識に基づいた感染対策—

新型コロナウイルスは、「新型」とは言えしよせんウイルスです。新型コロナウイルスであっても基本的特徴はインフルエンザなどの他のウイルスと共通する部分が多いです。ウイルスの最大の特徴は「自力では増えない」ということです。すなわち、感染者、もう少し厳密に言えば生きた細胞がないと増えることができません。環境中には長く存在しないですし、一度細胞外に出るとどんどんウイルスは死滅していきます。そして何より重要なことは、新型コロナウイルスはアルコール消毒

に弱いことです。こまめに手をアルコール消毒すれば、感染リスクを下げるすることができます。当院ではマスク全員着用で飛沫飛散を防ぎ、そして感染対策の原則である手指衛生を中心とした標準予防策を徹底しています。

2) コロナだけじゃない—新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 以外の病気と闘わないといけない患者さんがいることを意識—

新型コロナウイルス感染流行における当院の役割は、他の医療施設では対応できない COVID-19 重症症例を引き受けることです。一方で造血幹細胞移植、心臓血管手術や気管外科手術など、他の施設では対応できない重症患者さんの診療も待ったなしです。当院はこのような小児重症疾患の「最後の砦」としての役割も果たし続けたいと思っております。小児の3次医療施設として機能しつつ、重症小児 COVID-19 患者さんを受け入れ、かつ院内感染させない、という当院の目標はかなり厳しいものです。当院での治療を必要とする患者さんのために「こども病院を安全地帯にする」をスローガンにして職員一丸となって対応し続けます。患者様・ご家族様にはご不便をおかけしますが、何卒ご理解とご協力のほどをよろしくお願いいたします。

こども病院を安全地帯に！

- ✓ 健康チェックにご協力をお願いします
- ✓ 病室に入る前にしっかり手洗いをしましょう



私たち医療従事者は**標準予防策**を理解し、実践します